

緊急のとき、こまったときの 行動マニュアル

<にほんご>

作成・発行 **かながわ自治体の国際政策研究会**
かながわけん けんないしちょうそん
 (神奈川県・県内市町村)
 平成 18 年 10 月発行

●わたしのこと

名前 _____
 住所 _____
 生年月日 _____ 血液型 Rh _____
 国籍 _____ はなごたば 話せる言葉 _____
 ●家族への連絡先
 家族の名前 _____ わたしとの関係 _____
 電話番号 (携帯電話番号) _____
 電子メールアドレス _____
 ●わたしの勤め先
 名称 _____ 電話番号 _____
 電子メールアドレス _____



きゅうびょう
急病やけがで
 きゅうきゅうしゃ よ
救急車を呼びたい

●でんわ

TEL

1 1 9

- 急病や大けがのとき、「119」(消防)に電話して、救急車を呼びます。
- 119に電話して、消防が出たら、
 - 救急(きゅうきゅう)であること
 - どうしたのか(病気やけがの状態)
 - 住所または場所
 - あなたの名前、電話番号を知らせましょう。
- 日本語が話せないときは、まわりの人に連絡をたのみましょう。



かじ
火事のとき

●大きな声で「火事だ」と知らせる

●でんわ

TEL

1 1 9

- 大きな声で「火事だ」と近所の人に知らせます。
- 「119」(消防)に電話して、消防車を呼びます。
- 自分ひとりです、消そうとすると危険です。
- 119に電話をして、消防が出たら、
 - 火事(かじ)であること
 - 住所や建物の名前
 - 燃えているもの
 - 近くの目印になる建物など
 - あなたの名前、電話番号を知らせましょう。
- 日本語が話せないときは、まわりの人に連絡をたのみましょう。



はんざい ひがい
犯罪の被害、
 こうつうじこ
交通事故のとき

●でんわ

TEL

1 1 0

- どろぼうや暴力の被害にあったとき、交通事故のとき、事件や事故に出会ったとき、「110」(警察)に電話して、警察官を呼びます。
- 110に電話をして、警察がでたら、
 - 何があったか(事件です、または事故です)
 - いつ(いまから○分前です)
 - どこで(場所や目印になる建物など)
 - 犯人のかお、着ていた服、車の特徴
 - あなたの名前、電話番号を知らせましょう。
- 日本語が話せないときは、まわりの人に連絡をたのみましょう。

地震のときの心得 10か条

日本では、地震がよくおきます。地震が起きたときに、けがをしたり、火事にならないように、次のように行動します。

●ゆれたときの行動

- ① グラツきたら まず自分の体を守り 使っている火はすぐに消す
- ② ゆれがおさまるまで ようすを見る
- ③ こわれたものでけがをしないよう おちついて行動
- ④ 窓や戸を開けて 出口をつくる

わが家の避難場所 (集合場所)

●名称 場所 電話番号

★ いざというときのために、家族で話し合ひましょう

おたがいの連絡方法、みんなの集合場所、避難する場所までの安全な道順など

家族と連絡をとりたとき

●NTT災害時伝言ダイヤル

メッセージを録音するとき メッセージを聞くとき

1 7 1

1 7 1

↓

(日本語のガイダンス) ↓

↓

1

2

↓

(日本語のガイダンス) ↓

↓

被災した人の電話番号: (×××) ×××-××××

↓

(日本語のガイダンス) ↓

↓

困ったときの相談窓口

相談窓口や曜日によって、相談できる言語(言葉)が違います。まず、電話して確認してください。

●県の相談窓口

(受付時間 月～金 9:00～12:00, 13:00～16:00)

- かながわ県民センター 045(312)1121
- 県央地域県政総合センター 046(221)5774
- 川崎県民センター 044(549)0047

●医療通訳を頼みたいとき

(受付時間 月～金 9:00～12:00, 13:00～16:00)

- MIC かながわ 045(317)8803

- ⑤ 上から落ちてくるものがあるので 家や建物から あわてて外に飛び出さない
- ⑥ 門やへいは倒れやすいから 近づかない

●地震のあとの行動

- ⑦ ラジオやテレビで 正しい情報をきいて行動
- ⑧ わが家の安全 隣りの安否を確かめあう
- ⑨ 協力し合って たすけたり けがのであてをする
- ⑩ 避難の前に安全確認 電気・ガスは元栓を閉める

災害時の持ち出し品リスト

【非常持出品】 避難の時必要なものを、リュックサックなどにまとめておく。

飲む水・ラジオ・着替えの服・くつ・食べもの・マッチやライター・貴重品・懐中電灯・救急セット・筆記用具・雨具(防寒)・ティッシュペーパーなど生活に欠かせない用品

【非常備蓄品】 地震後の生活を支える食べものなど、一人あたり3日分程度

ローソク・カセットこんろ・固形燃料・飲む水(ポリ容器などに) ※1人に1日3リットルが目安

1 #

1 #

↓

(日本語のガイダンス)

↓

メッセージ録音 (30秒以内)

メッセージの再生

↓

(日本語のガイダンス)

↓

9 #

9 #

↓

(日本語のガイダンス)

↓

おわり

おわり

●携帯電話各社では、災害のときには、「災害用伝言板」がつかえます。

●身近な市町村の相談窓口

- 横浜市国際交流協会 045(222)1209
- 川崎市国際交流協会 044(435)7000
- 横須賀国際交流協会 046(827)2166
- 平塚市役所 0463(21)8764
- 藤沢市役所 0466(25)1111
- 茅ヶ崎市役所 (予約制) 0467(82)1111
- 厚木市役所 046(225)2100
- 大和市国際化協会 046(260)5126
- 相模原市役所 042(769)8319
- 秦野市役所 0463(82)2001
- 湯河原町役場 0465(63)2111
- 愛川町役場 046(285)2111